

New Sports の台頭

真柄 浩

Rise of New Sports.

Hiroshi MAGARA

現代はもっともスポーツ文化の成熟した時代を迎えていると言って良い。高度に磨かれた技術と強靱な肉体を要求されるチャンピオンスポーツ。一般市民ランナー参加型の社会体育・スポーツ。健康維持・増進の治療リハビリテーションスポーツ。ストレス解消簡単ルールのレクリエーション軽スポーツ。ケーブルチャンネルで中継されるメディアスポーツ。これらのスポーツ文化を視座を変えると、既存の伝統的スポーツとニューススポーツに分けられる。このニューススポーツは、まさにニューが主張する目新しさが基本的概念である。一般的には、いつでも、どこでも、だれでも、すぐできるニューススポーツ、あるいは、親しみ易く、大掛りでなく、手軽に、さらには、やわらかいスポーツなどと理解されている。

ニューススポーツに対するこの考え方は、世界の文明先進国が、スポーツを国民に解放されたものとして定着させ、普及させた時に取った政策に共通している。イギリスの「スポーツ・フォー・オール」運動、アメリカの「ニューカルチャー」運動、ノルウェー・北欧・ヨーロッパの「トリム」運動、旧西ドイツの「ゴールドデン・プラン」運動、「第二の道」運動などがこれにあたる。ニューススポーツの原点であろう。視点を変えて見るとニューススポーツの系譜は次の様に分類することができよう。

- 新しいスポーツの創造・開発・開拓。
- 既存スポーツの改良・発展・拡大。
- 既存スポーツの複合・改革・改編。
- 既存スポーツの簡易・縮小。
- 民族スポーツ等の輸入。
- 既存スポーツの女子種目新設

他に年齢・体力・能力別の大会が続々と行なわれており、ニューススポーツ花盛りである。従来からの競技分類に従えば、陸上・水上・球技・格技・冬季競技などであるが、テニス型・バレーボール型・ゴルフ型などの分類法も考えられる。さらに、ネット対面式、ラケット式・打ち返し式・ゴール型・人数

別・ボールの形状なども考慮に入れられる。運動量、技術難易度、勝敗決着方法なども普及の点からは重要である。他に占有空間別、発祥地域国別、複合性別制、対象年令制、総合均一制、出生背景、色彩重視度、自然環境型、経済的側面など要素は多い。

ここでは、ニュースポーツのリストアップと分類を第一義的に行い、その成立と背景などを考察し、これからのスポーツ文化の定着・発展を考える一助に資したい。